

海底プラスチックごみの実態把握、劣化・微細化と回収可能性を探る

日時・場所：令和8年3月29日（日） 9:00-16:30 第9会場(白鷹館講義室)+ウェビナー
企画責任者：東海 正（海洋大）・松下吉樹（長大院生産）・河村知彦（東大大気海洋研）・塩出大輔（海洋大）



©JAMSTEC



9:00 - 9:15 開会の挨拶

東海 正（海洋大）

I. 海底プラスチックごみの実態とその把握手法

座長：東海 正（海洋大）

9:15 - 9:40 潜水調査で見た浅海域における海底ごみの実態

松下吉樹（長大院生産）

9:40 - 10:05 底曳網における採集効率と海底ごみの密度推定

塩出大輔（海洋大）

10:05 - 10:30 深海域における海底ごみの水中映像による実態把握

中嶋亮太（海洋研究開発機構）

10:30 - 10:40 休憩

II. 海底プラスチックごみの劣化・微細化の可能性を探る

座長：河村知彦（東大大気海洋研）

10:40 - 11:05 ウニ類の摂餌行動に伴うプラスチック微細化

早川 淳（東大大気海洋研）

11:05 - 11:30 植食性貝類の摂餌行動に伴うプラスチック微細化

伯耆匠二（三重大院生産）

11:30 - 11:55 生物の付着・連行によるプラスチック劣化・微細化の評価

平井悠司（千歳科技大）

11:55 - 12:20 海底プラスチックごみの劣化実態および物理的作用による微細化挙動の評価

高橋勇介（国立環境研）

III. 漁業による海底プラスチックごみの回収の可能性

座長：松下吉樹（長大院生産）

13:30 - 13:55 海底プラスチックごみの回収が海草場に及ぼす影響

Gregory Nishihara（長大海セ）

13:55 - 14:20 海底プラスチックごみが漁業活動の作業効率に与える影響

高山 剛（水研機構技術研）

14:20 - 14:45 漁業による海底プラスチックごみの回収の効果について

内田圭一（海洋大）

14:45 - 15:10 漁業者に海底プラスチックごみの回収を促す動機づけ

消費者による評価を中心に

加藤尊秋（北九州市立大）

IV. 総合討論（15:10 - 16:20）

座長：松下吉樹（長大院生産）

16:20 - 16:30 閉会の挨拶

河村知彦（東大大気海洋研）

趣 旨 近年マイクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみ（以降、プラごみ）による海洋汚染は、喫緊に対策が必要な地球環境問題の一つと認識されている。海洋に漏出したプラごみの相当量が海底に沈んだプラごみ（以降、海底プラごみ）となり、レガシープラスチックとして蓄積されると考えられ、マイクロプラスチックの存在も明らかとなってきている。こうした海底プラごみの回収のため、漁業者が操業時船上に揚げた海底プラごみを港に持ち帰り、漁協や自治体の協力のもとで処理することが国の補助事業として取り組まれているが、必ずしもその活動は活発ではない。こうした海底プラごみの実態を解明するために、海底プラごみの量や密度を推定する手法を整備するとともに、海底でのプラご

みの劣化や微細化と生物の関わりを解明する手法が求められている。また漁業による回収活動の活発化のため、実際に海底プラごみを回収できること、その回収による生物や藻場などの生態系への影響低減や漁労作業の負荷軽減などを評価することを通じて、海底プラごみ回収の動機づけをより明確にして政策につなげる必要がある。

本シンポジウムでは、海底プラごみに関するプロジェクト*の研究成果を紹介し、その実態解明および回収の重要性と可能性について議論する。

(*環境研究総合推進費SII-10 JPMEERF23S21000)

問合せ先：東海 正(海洋大) tokai@kaiyodai.ac.jp

Webexでのオンラインで視聴される方はこちらから登録を：

<https://tumsat.webex.com/weblink/register/r28b9bfc0629709909ef3976f81e1de2d>